

モノづくり＝作品づくり

株式会社 ミズノマシナリー

油圧機器製造専門としてスタート

神通川と緑眩しい田畑に囲まれたミズノマシナリーは、NC旋盤による油圧機器部品の製造と、5軸/5面加工マシニングセンターなどによるアルミ精密部品製造（主に半導体・液晶製造装置関連部品・航空器部品などの大型かつ高精度の製品）が営業の二大柱である。

同社は、1963年に現社長水野文政氏の父により町工場「水野鉄工所」として富山市に誕生した。



DMG社マシニングセンター。

建機向け油圧機器の製造を中心として操業を開始し、旋盤が徐々にメジャーになりつつあった1978年に、最初のNC旋盤を導入した。旋盤は圧倒的に油圧機器製造のために用いられているが、同社は顧客の細かなニーズに応えるため、工具を自社で製作している。たとえばカートリッジバルブの2〜4ミリ程度の小径内径の精密旋削加工用工具は、同社が独自に製作したものだ。

波乱万丈の転換期

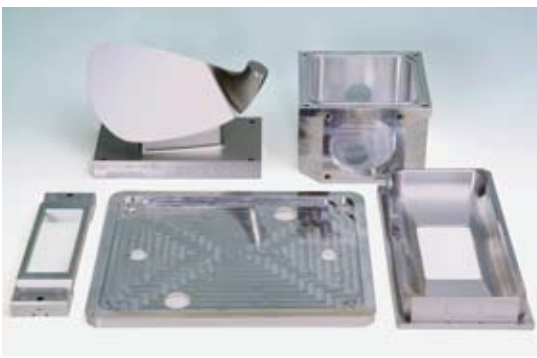
10年前、同社に転機が訪れた。

当時、油圧機器の売上は不安定であり、NC旋盤による油圧機器部品を看板商品とする同社にとってはこのまま旋盤ばかりに頼るのは心もとなく思われた。そのような時、社長はマシニングに目をつけたのだ。そして1996年、油圧機器製造と平行して、マシニングによるアルミ加工事業をスタートさせた。一昨年には、ドイツDMG社のマシニングセンターを購入。DMG社の工作機械

を多数台持つ会社はわが国でもまだ珍しい。

そのようななか、油圧機器の5割以上のシェアを占めていた取引先が倒産。まさにこれからマシニングと共に新天地を拓こうとしていた同社にとって、晴天の霹靂といえる衝撃であった。

しかし驚くべきことに、その後倒産した会社と繋がりのあった会社達も、直接同社と取引を結ぶようになったのだ。製品の品質が高く買われていたということの証であろう。そのおかげでシェアは回復し、以前にも増して高い利益をあげるようになった。見事な起死回生を遂げた社長は、「あの時も



5軸5面加工が施されたアルミ製品。

しも油圧機器一本で経営を続けていたら今ごろどうなっていたかわからない」と語る。社長の先見の明が会社を救ったのだ。

これからの展望

同社が掲げるこれからの目標としては、旋盤については「今の路線をきちんと固め、かつ顧客の要望にしっかりと応えること」だと工場長川上正徳氏は言う。

マシニング加工では、取り組みを開始した航空関係部品の製造は今後20年程は忙しくなるだろうという予測のもと、さらに航空部品以外の分野も見極めていくつもりだ。

また、技術を継承していくこれからの若い人材について、「何か、人と変わっていたいをモットーに常に好奇心を持って、色々な発想を持ってほしい。ものづくりを、単なる仕事というより作品づくりとして楽しんでほしい」社長は語る。



社長の水野文政氏。

常識にとらわれず技術を伸ばしつづけることこそ製造業の基本であると語る社長の、モノづくりへの愛を見た。

編集部／青木理恵子

Company Profile

株式会社 ミズノマシナリー

所在地：富山県富山市婦中町板倉 513-4

TEL：076-466-9233 FAX：076-466-9234

担当者：代表取締役 水野文政

事業内容：アルミ精密部品のMC加工および研磨、5軸多面加工、

油圧機器部品の小型カートリッジバルブ

エミダス会社・工場詳細情報：

<http://www.nc-net.or.jp/emidas/gaiyou.php?49189>

※「エミダス工場検索」のキーワード検索「ミズノマシナリー」で検索できます。

本誌付録の「ザ・日本製造業パワーアップ CD-ROM」にて、同社の工場技術動画をご紹介します！

ザ・日本製造業

パワーアップ CD-ROM

EMIDAS